

## 論 文 要 旨

博士課程 甲・乙	第 <b>421</b> 号	氏 名	坂元 紀陽
<p>[論文題名]</p> <p>Adrenomedullin does not contribute toward the development of abdominal aortic aneurysm in mice (<i>Health, accepted</i>) (英文題名)</p> <p>腹部大動脈瘤形成におけるアドレノメデュリンの役割 (日本語題名)</p> <p>[要 旨]</p> <p>【背景】腹部大動脈瘤は動脈硬化を基盤に進展するが、その病態・機序については不明な点も多い。アドレノメデュリン (AM) はヒトおよびマウス等のげっ歯類の組織中に広く分布し、血管保護作用があると報告されている。以前、我々はヒト大動脈瘤組織中に分布するマスト細胞から AM が産生され、更に産生された AM が抗線維化作用を有していることを報告した (Tsuruda T et al. <i>Cardiovascular Research</i>. 2005; (4): 921-929)。今回我々は腹部大動脈瘤モデルマウスを用いて、腹部大動脈瘤の進展における AM の役割について検討した。</p> <p>【方法】普通食で飼育した 12 週齢の雄のアポリポプロテイン E ノックアウト (apoE<sup>-/-</sup>) マウス及び apoE<sup>-/-</sup>/AM ヘテロノックアウト (AM<sup>+/-</sup>) のダブルノックアウトマウスにアンジオテンシン II を 1000ng/kg/min で 28 日間投与した。更に同モデルの apoE<sup>-/-</sup>マウスに、リコンビナント human AM (rhAM) を 300ng/kg/hr または 3000ng/kg/hr 投与し、それぞれの群についても検討した。</p> <p>【結果】apoE<sup>-/-</sup>マウスと apoE<sup>-/-</sup>/AM<sup>+/-</sup>マウスにおいて、腹部大動脈瘤の発生率について有意な差はみられなかった (33.3% vs. 47.4%, p=0.2333)。また apoE<sup>-/-</sup>マウスにおいて、rhAM 投与にて腹部大動脈瘤の発生率の有意な変化もみられなかった (AM 0ng/kg/hr 47.4%; 300ng/kg/hr 36.4%; 3000ng/kg/hr 27.3%; p=0.2595)。</p> <p>【結語】本実験において、腹部大動脈瘤進展における AM の効果を見出すことはできなかった。</p>			
備考 論文要旨は1, 000字程度にまとめるものとする。			